

核兵器の人道的影響

ノルウェー、オスロ市 2013年3月4-5日

議長総括

オスロにおいて3月4日から5日まで開催された核兵器の人的影響に関する会議では、核兵器の爆発がもたらす様々な結果について、幅広い分野の専門家がプレゼンテーションを行った。これらのプレゼンテーションは、核兵器の爆発による人道面、開発面、環境面における中長期的影響のみならず、爆発に対する準備体制や初期対応をもカバーするものであった。

今回の会議の目的は、核兵器の爆発の人的影響について、事実に基づく見解を提示し、各国をはじめ国連やその他国際機関、市民社会の関係者とともに、十分な情報に基づいた議論を促すことにある。

当会議には、127か国、国連、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、市民社会の代表団が参加した。これだけの幅広い参加を得たということは、核兵器爆発のもたらす結果が我々すべての人にとって極めて重大な問題であると認識されているのみならず、この問題に対する世界的な懸念が高まっていることを反映しているものであると、議長は考える。

プレゼンテーション及び議論の要点は以下のとおり。

- いかなる国家あるいは国際機関も、核兵器の爆発が直ちにもたらす人道面における緊急事態に十分に対応し、被害者に対して十分な救援活動を行うことは不

可能であろう。そのような対応能力を確立すること自体、いかなる試みをもってしても不可能かもしれない。

- これまでの歴史で核兵器の使用及び実験から得た経験は、それが即時的にも長期的にも壊滅的な結果をもたらすことを実証している。政治状況は変わっても、核兵器の潜在的破壊力に変わりはない。
- 原因を問わず、核兵器の爆発の結果は国境を超え、地域的にも世界的にも国家や市民に重大な影響を及ぼす。

今回の会議は核兵器の爆発の人的影響の主たる側面を提示することを目的とした。議論の中、多くの国が、全世界からの参加を得られるような方法でこの重要な問題をさらに探求していくことに興味を示した。議論を継続し、核兵器の人的影響に関する議論の幅を広げていくことにも興味を示した。議長は、今回の会議のフォローアップ会合を主催するというメキシコからの提案を歓迎する。また、他の国々がこのテーマに関する様々なイベントを行う意思を示していることも歓迎する。